

平成26年5月28日

嬉野市議会議長 田口 好秋 様

産業建設常任委員会
委員長 辻 浩一

産業建設常任委員会報告書

平成26年3月議会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会
会議規則107条の規定により報告する。

付託事件名 所管の公共施設について

調査理由

平成26年4月16日、産業建設常任委員会所管の施設について、その所在の
確認と現状について調査を行った。

調査箇所は次のとおり

公共下水道（みずすまし）・農業集落排水（五町田・谷所）
排水機場（馬場下・下童・三ヶ崎・大牟田）
農村公園（下童・福富・南下久間）
河川堰（宮の元関東堰・大草野宮之浦堰）

現状

「公共下水」

公共下水道（みずすまし）は嬉野町今寺地区に所在し平成18年共用開始され
た。

現在接続可能戸数2,651世帯に対し接続世帯数1,153戸接続率43.49％である。

処理方式はオキシデーションディッチ法（酸化溝法）処理池2基で稼働して
いる。

1日1池の処理能力は900tで、現在1日1,100～1,200tの汚水の流入があ
り、あと600t程度の余力がある。

汚泥残渣及び異物は産業廃棄物として処理しており、処理水については沈殿
濾過の後、塩素処理して河川に放流している。

「農業集落排水」

農業集落排水（五町田・谷所）は平成 23 年 4 月供用開始となり平成 24 年 4 月現在接続同意世帯数 786 世帯に対し接続世帯 549 戸接続率 75.6 % である。

処理方式は連続流入間欠ばっ気方式で日平均汚水量 1,153 m³ である。

他の施設同様基本的に微生物による処理法であり沈殿濾過後は処理水を塩素処理後河川放流する。ただし、ここでの汚泥残渣は他の農業集落排水施設の汚泥残渣と共にコンポスト化を行っている。

コンポストは農業資材として活用する計画であり、現在塩田地区の希望者に無料で配布し農業資材としての有効性について実証試験中である。

「排水機場」

馬場下排水機は昭和 58 年完成し、排水量 3.0 m³/s の能力を有している。排水機場に通ずる花立水路は通常浦田川に向けて流れているが、冠水の場合花立水路を利用し浦田川の水を引き込む形式である。

今まで花立水路が狭小で脆弱であったために、能力を十分発揮できていなかった。

しかし、平成 25 年水路改修が終わり効果が出ているとの事である。

三ヶ崎排水機場は昭和 58 年完成で排水量 5.0 m³/s あり、平成 25 年度除塵機改修があり労力の軽減になった、現在二か年でのポンプのオーバーホール中である。

下童排水機場は昭和 61 年完成で排水量 6.2 m³/s の機能である。

大牟田排水機場は平成 10 年度完成し縦軸ポンプが特徴の排水量 6.0 m³/s の最新の施設である。

「農村公園」

農村公園（下童・福富・南下久間）はそれぞれ高齢者の方を中心に利用されている。

また除草等の管理は地元の方が中心に適正に管理されていた。

「河川堰」

河川堰（宮の元関東堰・大草野宮ノ浦堰）それぞれ平成 26 年度農村地域防災減災事業で頭首工調査業務が実施され、平成 27 年度改修工事の計画が予定されている。

委員会の意見

公共下水については、管理費を使用料でほぼ賄っている状況であるが、今後人口減で使用料の減少を勘案した場合、処理能力に余力がある分については更なる接続に向けての推進が必要と考える。

接続が進まない一因として事業所含め個人の合併処理が進んでいることが上げられるが、改築や耐用年数を契機に公共下水に切り替え頂くような対策を期待する。

農業集落排水（五町田・谷所）供用開始から間もないので今後の接続増に期待する。

またコンポストは農業資材として十分利用され在庫とならないような製品化に期待する。

市内全体考えた場合、公共下水・農業集落排水の計画区域以外への施策方針について早急な結論を望む。

排水機場は塩田町下流部の方にとっては生命財産を守る重要な施設であり、定期点検を含め現在円滑な運営がなされている。

特に大牟田排水機場の完成により三ヶ崎との連動で県道はじめ福富・大牟田の冠水被害が大幅に減少しているとの事である。

今後の課題としてオペレーターの高齢化が進んでおり、また緊急時に地元で所在しているかなど、人員の確保や操作技術の継承が重要になってくる。

農村公園については今回3か所調査を行った。除草管理等は地元管理で適正に行われていたが、遊具等の一部が老朽化しており改修・撤去含め早急に結論を出す必要があると考える。

また他の農村公園の中で数ヶ所管理が不十分な箇所があると聞いており、今後の管理について地元との協議を行うべきである。

公園については、遊具など長寿命化に向けて維持管理の計画を行うにあたり、都市公園を含め一元管理が望ましいのではないかと考える。

河川堰については治水・利水に対して大きな役割があり、特に防災に備え日ごろの点検管理が重要である。

以上報告する。